

2026年3月期 第2四半期決算 補足説明資料



その感動のウラに、富士ダイス。

2025年11月27日

1. 2026年3月期第2四半期 業績概要	P.02
2. 2026年3月期 業績進捗	P.09
3. 2026年3月期 重点施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み	P.13
4. 海外事業の飛躍に向けての取り組み	P.20
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現	P.25
6. APPENDIX	P.29

01

2026年3月期第2四半期 業績概要

2026年3月期第2四半期 連結業績総括

連結売上高 8,417百万円（前期比1.7%・業績予想比-3.5%）

連結営業利益 322百万円（前期比10.7%・業績予想比46.5%）

- 売上高は前期比で増加・業績予想に対して未達
- 営業利益は売上高の増加、棚卸資産の増加、生産性向上・業務効率化の施策により前期・業績予想を超過

売上高	増加要因	■ 冷間圧延関連の工具等の需要が堅調 ■ 製缶金型やモーターコア用金型の販売が好調 ■ 海外向けの超硬素材販売が好調
	減少要因	■ 熱間圧延ロールの販売が低調 ■ 混錬工具の需要減
利益	増加要因	■ 売上増加 ■ 棚卸資産の増加 ■ 生産性向上・業務効率化の施策に一定の成果
	減少要因	■ 原材料の高騰 ■ 人財投資の拡充に伴う費用増

2026年3月期第2四半期 連結業績サマリー

- 売上高は前期比増だが、予想には届かず
- 各段階利益は前期比では営業利益以外は減少だが、予想を超過
- 経常利益は為替差損の影響により前期比で減少

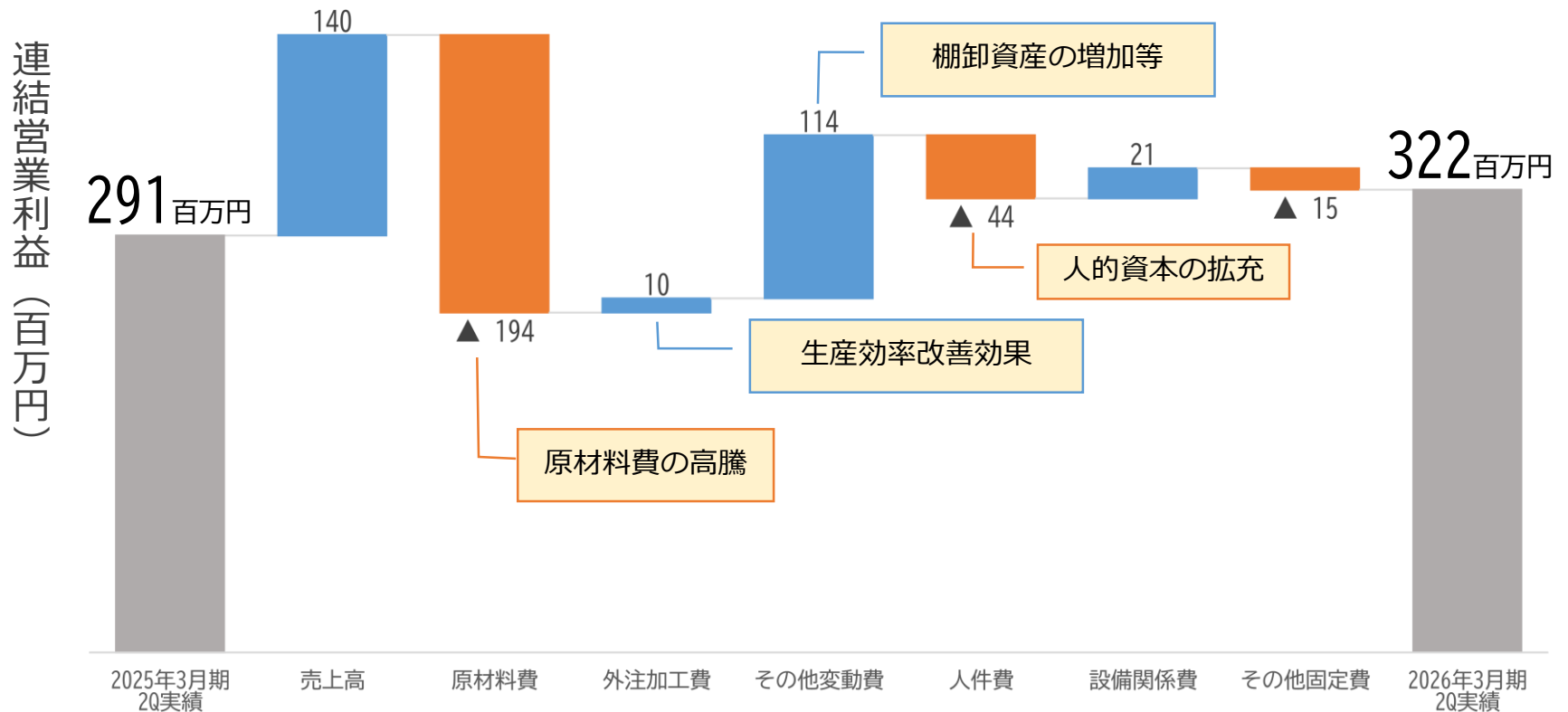
	2025年3月期 第2四半期実績	2026年3月期 第2四半期実績	前期増減率	2026年3月期 第2四半期予想	第2四半期 予想比	2026年3月期 業績予想	業績予想 進捗率
(単位：百万円)							
売上高	8,277	8,417	1.7%	8,720	-3.5%	17,600	47.6%
営業利益	291	322	10.7%	220	46.5%	600	53.7%
(営業利益率)	(3.5%)	(3.8%)	(8.8%)	(2.5%)	(51.8%)	(3.4%)	
経常利益	394	306	-22.3%	270	13.5%	700	43.8%
(経常利益率)	(4.8%)	(3.6%)	(-23.6%)	(3.1%)	(17.6%)	(3.9%)	
親会社株主に帰属する 中間/当期純利益	250	196	-21.5%	170	15.6%	460	42.7%
中間/当期純利益率	(3.0%)	(2.3%)	(-22.8%)	(1.9%)	(19.8%)	(2.6%)	
1株当たり 中間/当期純利益	12.59円	9.88円	-21.5%	8.55円	15.6%	23.12円	-
自己資本比率	81.0% (2025年3月期末)	79.6%	-				

(百万円未満 切り捨て)

2026年3月期第2四半期 連結営業利益 増減要因（前期比）

営業利益

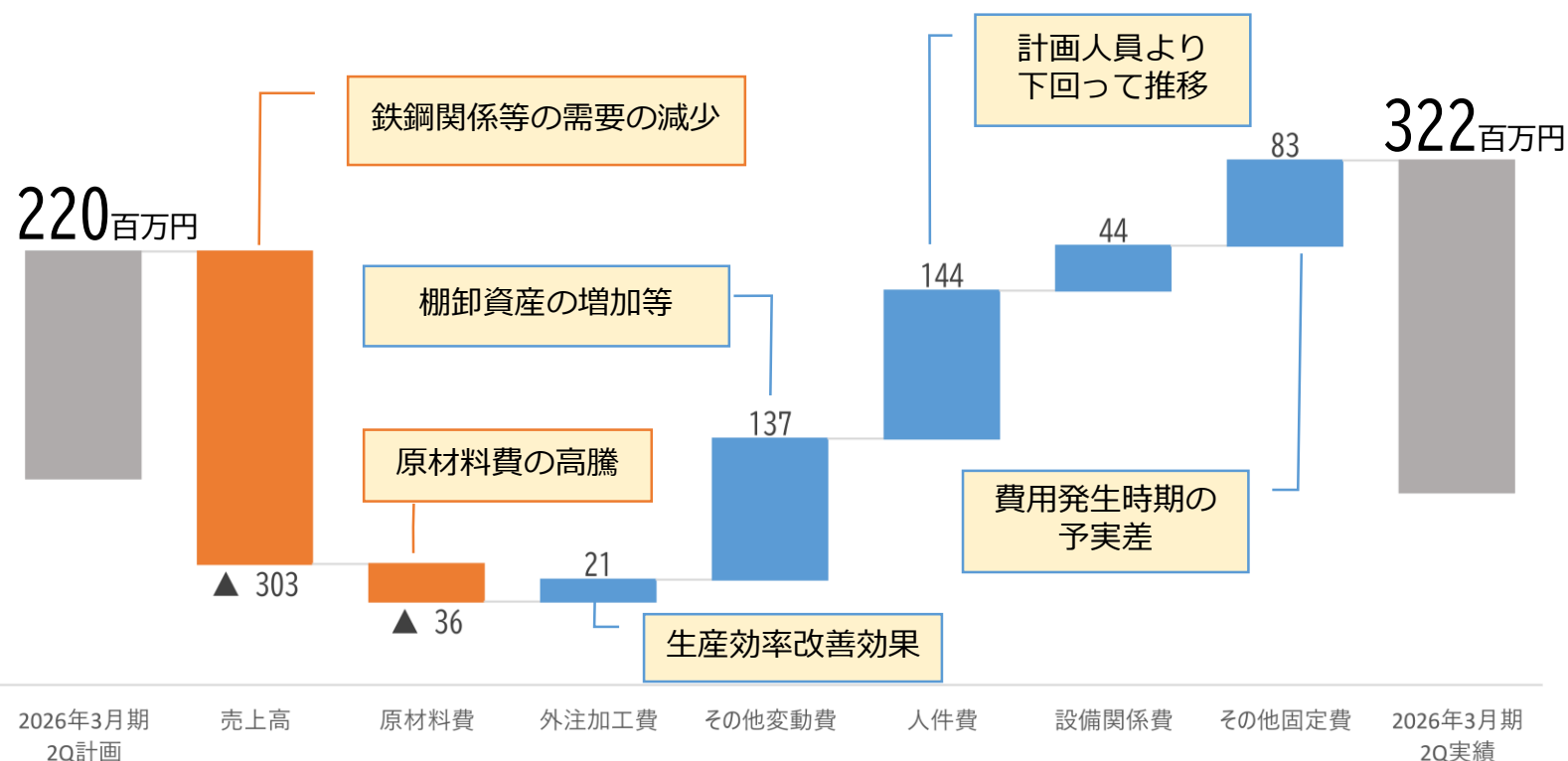
売上高の増加、棚卸資産の増加、生産性向上・業務効率化の施策により増加



2026年3月期第2四半期 連結営業利益 増減要因（予想比）

営業利益：予想比 102百万円

連結営業利益（百万円）



【2026年3月期 利益予想の前提条件】

（単位：百万円／百万円未満 切り捨て）

①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：375ドル/10kg（2025年9月実績600ドル／10kg）

②為替：145円/米ドル

2026年3月期第2四半期 財務の状況 連結貸借対照表 増減分析

- 現金及び預金が365百万円、原材料及び貯蔵品が113百万円増加したものの、有価証券が1,000百万円減少したことにより、流動資産は489百万円減少
- 建設仮勘定が43百万円、繰延税金資産が34百万円、投資有価証券が33百万円増加したものの建物及び構築物（純額）が167百万円減少したことにより固定資産は39百万円減少

財務状況

2025年9月末 ※（ ）は2025年3月末との差

資産 25,074百万円 (- 529百万円)	負債 5,116百万円 (260百万円)
	純資産 19,958百万円 (-789百万円)

単位：百万円	2025年3月末	2025年9月末
流動資産	14,909	14,419
固定資産	10,694	10,654
資産合計	25,603	25,074
流動負債	3,395	3,644
固定負債	1,460	1,471
負債合計	4,855	5,116
純資産合計	20,748	19,958

負債・純資産・自己資本比率

2025年3月末	2025年9月末
4,855百万円	5,116百万円
81.0%	79.6%
20,748百万円	19,958百万円

負債	純資産	自己資本比率
現金及び預金	7,311百万円	
原材料及び貯蔵品	1,412百万円	
建物及び構築物（純額）	4,566百万円	
機械装置及び運搬具（純額）	2,107百万円	
短期借入金	21百万円	
長期借入金	-百万円	
退職給付に係る負債	1,434百万円	
利益剰余金	19,087百万円	
その他包括利益累計額	849百万円	

（百万円未満 切り捨て、自己資本比率は小数点第2位を四捨五入）

2026年3月期第2四半期 キャッシュ・フロー計算書

営業CF：税金等調整前中間純利益（308百万円）・減価償却費（513百万円）

投資CF：有形固定資産の取得による支出（317百万円）

定期預金への預入による支出（123百万円）

定期預金への払戻による収入（429百万円）

財務CF：配当金の支払いによる支出（792百万円）

(単位：百万円)	2025年3月期 第2四半期実績	2026年3月期 第2四半期実績	増減
営業活動によるCF	1,057	712	-345
投資活動によるCF	-464	-44	420
フリーCF	592	668	75
財務活動によるCF	-651	-914	-263

(百万円未満 切り捨て)

02

2026年3月期 業績進捗

主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績進捗（2026年3月期）

	輸送用機械	鉄鋼	非鉄金属・金属製品																																																
売上高（億円）	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>28.1</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>26.7</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>27.9</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>27.6</td></tr><tr><td>26/3期</td><td>29.2</td></tr><tr><td>26/3期 2Q実績</td><td>14.1</td></tr><tr><td>26/3期 3Q計画</td><td>15.1</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	28.1	23/3期	26.7	24/3期	27.9	25/3期	27.6	26/3期	29.2	26/3期 2Q実績	14.1	26/3期 3Q計画	15.1	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>26.3</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>25.7</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>28.3</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>25.7</td></tr><tr><td>26/3期</td><td>27.4</td></tr><tr><td>26/3期 2Q実績</td><td>11.6</td></tr><tr><td>26/3期 3Q計画</td><td>15.8</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	26.3	23/3期	25.7	24/3期	28.3	25/3期	25.7	26/3期	27.4	26/3期 2Q実績	11.6	26/3期 3Q計画	15.8	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>21.5</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>22.6</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>23.4</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>20.1</td></tr><tr><td>26/3期</td><td>21.6</td></tr><tr><td>26/3期 2Q実績</td><td>10.7</td></tr><tr><td>26/3期 3Q計画</td><td>10.9</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	21.5	23/3期	22.6	24/3期	23.4	25/3期	20.1	26/3期	21.6	26/3期 2Q実績	10.7	26/3期 3Q計画	10.9
期	売上高（億円）																																																		
22/3期	28.1																																																		
23/3期	26.7																																																		
24/3期	27.9																																																		
25/3期	27.6																																																		
26/3期	29.2																																																		
26/3期 2Q実績	14.1																																																		
26/3期 3Q計画	15.1																																																		
期	売上高（億円）																																																		
22/3期	26.3																																																		
23/3期	25.7																																																		
24/3期	28.3																																																		
25/3期	25.7																																																		
26/3期	27.4																																																		
26/3期 2Q実績	11.6																																																		
26/3期 3Q計画	15.8																																																		
期	売上高（億円）																																																		
22/3期	21.5																																																		
23/3期	22.6																																																		
24/3期	23.4																																																		
25/3期	20.1																																																		
26/3期	21.6																																																		
26/3期 2Q実績	10.7																																																		
26/3期 3Q計画	10.9																																																		
製品イメージ	鍛造金型	圧延ロール	製缶工具																																																
事業概況	26/3期 2Qは、次世代自動車向けの開発案件が売りにげに寄与したが、自動車部品メーカーの生産調整の影響を受け低調（達成率48%） 26/3期 3Q以降は、自動車生産の回復による需要増に期待	26/3期 2Qは、海外向け熱間圧延ロールが前期の反動減、国内は自動車・建機の生産減の影響を受け低調（達成率42%） 26/3期 3Q以降は、海外鉄鋼向け販売があるものの、国内の回復が見込めず低調、上期の横ばいを見込む	26/3期 2Qは製缶工具が国内・海外向け共に堅調に推移。エアコン生産増により溝付きプラグが好調（達成率49%） 26/3期 3Q以降は、溝付ロールの在庫消化が進み通常化、耐アルミ関係製品の需要増を見込む																																																

主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績進捗（2026年3月期）

	生産・業務用機械	電機・電子部品	金型・工具向け素材																																										
売上高（億円）	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>17.4</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>20.5</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>20.4</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>21.2</td></tr><tr><td>26/3期 2Q実績</td><td>9.8</td></tr><tr><td>26/3期 計画</td><td>21.2</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	17.4	23/3期	20.5	24/3期	20.4	25/3期	21.2	26/3期 2Q実績	9.8	26/3期 計画	21.2	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>17.1</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>18.3</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>14.4</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>14.9</td></tr><tr><td>26/3期 2Q実績</td><td>7.4</td></tr><tr><td>26/3期 計画</td><td>15.4</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	17.1	23/3期	18.3	24/3期	14.4	25/3期	14.9	26/3期 2Q実績	7.4	26/3期 計画	15.4	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>24.8</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>23.1</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>22.9</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>25.2</td></tr><tr><td>26/3期 2Q実績</td><td>15.6</td></tr><tr><td>26/3期 計画</td><td>27.9</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	24.8	23/3期	23.1	24/3期	22.9	25/3期	25.2	26/3期 2Q実績	15.6	26/3期 計画	27.9
期	売上高（億円）																																												
22/3期	17.4																																												
23/3期	20.5																																												
24/3期	20.4																																												
25/3期	21.2																																												
26/3期 2Q実績	9.8																																												
26/3期 計画	21.2																																												
期	売上高（億円）																																												
22/3期	17.1																																												
23/3期	18.3																																												
24/3期	14.4																																												
25/3期	14.9																																												
26/3期 2Q実績	7.4																																												
26/3期 計画	15.4																																												
期	売上高（億円）																																												
22/3期	24.8																																												
23/3期	23.1																																												
24/3期	22.9																																												
25/3期	25.2																																												
26/3期 2Q実績	15.6																																												
26/3期 計画	27.9																																												
製品イメージ	光学素子成型用金型	電池向け金型	金型・工具向け素材																																										
事業概況	26/3期 2 Qは、半導体製造装置向け部品の販売が好調を維持（達成率46%） 26/3期 3 Q以降は、半導体製造装置向け部品は軟調との予想だが、光学素子向けは撮像向け新製品の引き合い継続で堅調に推移する見込み	26/3期 2 Qは、半導体封止材向け製品が低調だったが、車載用電池向け製品の需要が増加（達成率48%） 26/3期 3 Q以降は、半導体封止材向け製品は低調が続く予想だが、車載電池向け製品の需要が堅調に推移する見込み	26/3期 2 Qは、EV関連向けは横ばいだが、海外向けの超硬素材販売が好調（達成率56%） 26/3期 3 Q以降も、東莞拠点を足掛かりに中国市場の深耕などにより、海外向けの超硬素材販売拡大を見込む																																										

2026年3月期 業績見通し

- 売上高は新拠点の東莞を足掛かりにした中国での販売拡大や前期に引き続き好調な金型工具向けの素材に加え、輸送機器の需要増を見込む。
- 営業利益は人件費や原材料費の増加はあるが、価格改定による収益性の向上により対前年比22.9%増の6.0億円を見込む。

営業利益
6.0億円
(前期比22.9%増)

(単位：百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 2Q実績	2026年3月期 業績予想	期末における 前期増減	期末における 前期増減率
売上高	16,595	8,417	17,670	1,075	6.5%
営業利益	488	322	600	112	22.9%
(営業利益率)	(2.9%)	(3.8%)	(3.3%)	(0.4)	
経常利益	603	306	700	97	16.1%
(経常利益率)	(3.6%)	(3.6%)	(3.9%)	(0.3)	
親会社株主に帰属する 中間／当期純利益	426	196	460	34	8.0%
1株当たり 中間／当期純利益	21.42円	9.88円	23.12円	1.70円	-
1株当たり配当額	40.0円	-	40.0円	0.0円	-
DOE	3.8%	-	4.0%	0.1%	-

【2026年3月期 利益予想の前提条件】

①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：375ドル/10kg (2025年9月実績600ドル/10kg)

②為替：145円/米ドル

03

2026年3月期 重点施策の進捗と
第3四半期以降の取り組み

中期経営計画2026（2025年3月期-2027年3月期）：重要施策

変化に対応できる企業体質への転換

①経営基盤の強化

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

②生産性向上・業務効率化

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

③海外事業の飛躍

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

④脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

⑤新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、新事業シーズの事業化を加速

既存事業領域

新規事業領域

利益率向上

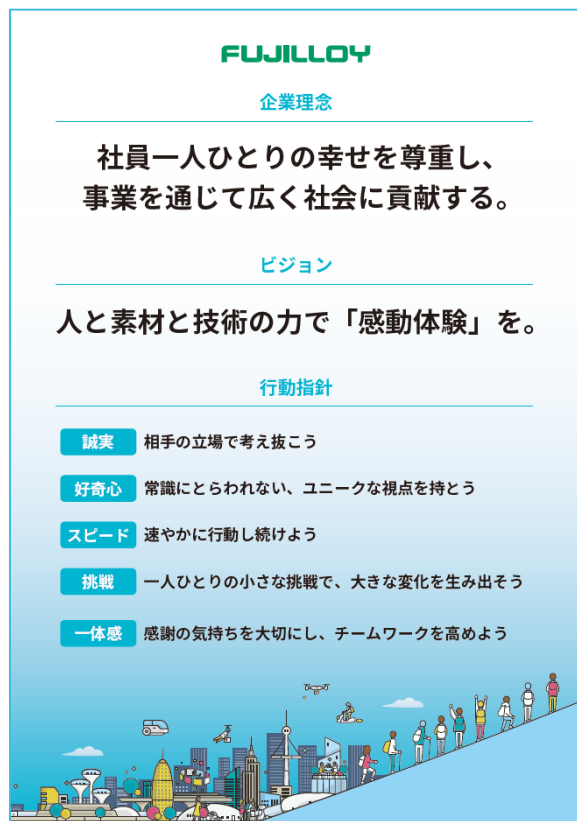
売上拡大

国内事業は成長の基盤（安定的に成長）、成長を牽引するのは海外事業
将来の成長基盤の育成として新事業の実現という方向性

重要施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み ①経営基盤の強化

進捗

2025年7月1日に、100年企業を目指して、グループ企業理念を見直し
ビジョンを新たに策定



超硬耐摩耗工具メーカー から

世の中に「感動体験」を増やす企業 へ



[コーポレートサイト「企業理念」より](#)

取り組み

DXを活用した営業活動の見える化やワークフローの導入により、業務効率化を推進

重要施策の進捗と

第3四半期以降の取り組み ②生産性向上・業務効率化

進捗

【自動化】今年度予定している自動化投資（1億6000万円）の全案件に着手

熊本製造所

- 部品どりを最適化するCAD・CAMの自動ネスティングを7月より本格稼働中 原材料の使用効率UP
- ラップ加工作業に自動化ロボットを8月よりテスト導入、11月より本格稼働 省人化を推進

秦野工場

- プラグ製作工程に自動ろう付装置を導入、12月より本格稼働予定 品質の安定化・生産性向上

岡山製造所

- 自動床洗浄ロボットを5月より導入、3Q以降他拠点に横展開を計画 間接時間を削減・省人化を推進

【生産性向上・業務効率化】

生産工程や焼結条件の見直し、治工具の改良などにより、需要が高まっているバインダーレス合金の生産量を短期間で倍増

取り組み

さらなる自動化により省力・省人化を推進

郡山製造所

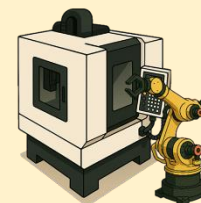
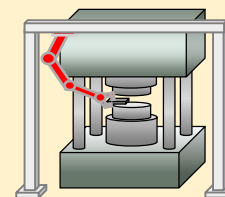
- 冶金工程の粉末成形プレス機にロボットアームを追加（12月導入、テスト稼働予定）
焼結用カーボンケースへの充填作業を自動化

熊本製造所

- 冶金工程の成形加工機に産業用ロボットを追加導入（12月導入予定）

秦野工場

- 研削加工作業に自動化ロボットを導入（2026年1月導入予定）



成形加工機 産業用ロボット

重要施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み ④脱炭素・循環型社会への貢献

新合金【サステロイ STN30】を販売開始

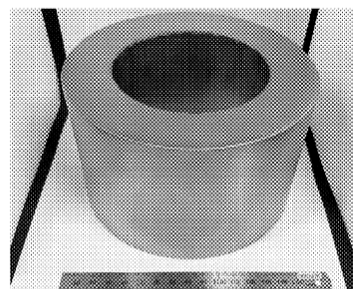
- 鋼程度の比重、超硬合金と同等・鋼の4倍の耐摩耗性を実現し、地政学的リスクが懸念されるレアメタルの使用量を大幅削減した新合金【サステロイ STN30】を開発
- 2023年3月に【サステロイ ST60】を開発・販売したが、【サステロイ STN30】は材料設計を根本から見直し、より耐摩耗性を向上

市場投入フェーズ

開発開始

本格販売

耐摩耗性、鋼の4倍



開発した新合金「サステロイ STN30」を初展示する。

開発した新合金「サステロイ STN30」は、従来の超硬合金に比べて耐摩耗性を大幅に向上させた。10月以降、試作品を用いた試験を開始し、鋼程度の比重、超硬合金と同等・鋼の4倍の耐摩耗性を実現した。回転工具や溶接工具など向けに売り込み、2025年度に1000万円の売り上げを目指す。

単体では耐用超硬合金と同等で鋼の4倍の耐摩耗性を持つ新合金を開発した。二酸化炭素を主成分とし、金属部分の摩耗を極力抑制する材料設計と、通電加熱技術を用いた結合剤の最適化により、溶接工具対応と粉末冶金の両条件下で優れた耐摩耗性を実現した。回転工具や溶接工具など向けに売り込み、2025年度に1000万円の売り上げを目指す。

富士ダイス、新合金開発

富士ダイスは地政学的リスクに影響されない安定供給を目指し、産出地が偏在するレアメタル（希少金属）の使用を抑えた合金開発を進めている。23年に超硬合金の主原料であるタンタルとコバルトの含有量が約9割削減された合金「サステロイ ST60」を開発し、発売。レアメタルを約9割削減という特長を生かしながら、今回、材料設計の見直しにより、局部的な摩耗にも耐えられるようにした。

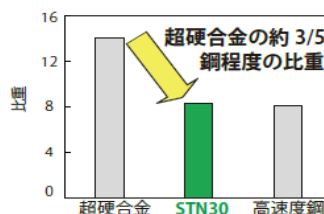
また、超硬合金の約5分の3と鋼程度の比重のため、回転工具に使用し、装置への負荷軽減にも電力削減などが見込まれる。研削加工に使用する超硬合金と同様に、放電加工もできる。

25日にポルトメッセ（名古屋）で開催する「名古屋オートモーティブワールド」に出展し、新合金「サステロイ STN30」を初展示する。

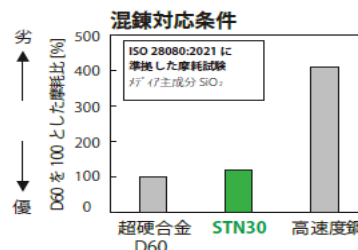
【2025年10月27日付「日刊工業新聞」】

新合金【サステロイ STN30】の特長

①軽量

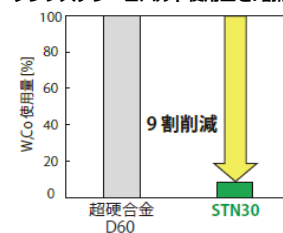


②高耐摩耗性



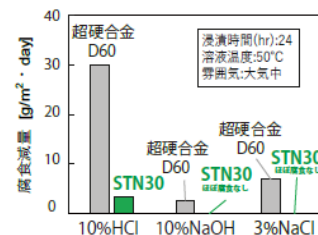
③省資源

タンングステン・コバルト使用量を9割削減



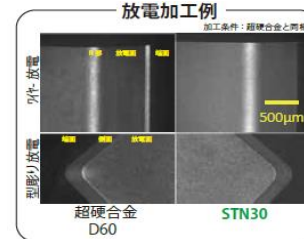
④高耐食性

一般超硬合金より腐食しにくい



⑤優れた加工性

研削加工性は超硬合金と同等、放電加工が可能



⑥磁性を有するため 磁力選別が可能

用途例

軽量でありながら、超硬合金と同等の耐摩耗性を実現。耐摩耗性が求められる一方で重量のある超硬合金の使用は難しい分野（回転工具や混練工具など）での利用が見込まれる。

FUJILLOY

重要施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み ④脱炭素・循環型社会への貢献

取り組み 成長分野に向けた製品開発

当社のコア技術である粉末冶金技術と超精密加工技術を軸に
成長分野に向けた製品を開発・市場投入

分野	概要	進捗状況	販売時期(計画)		
			25年3月期	26年3月期	27年3月期
次世代 エネルギー	① 水素発生用触媒・電極(PME)	①客先評価中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
	② 金属空気二次電池用触媒・電極(PME)	②量産化検討中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
次世代 光通信	光通信用コネクタ 金型	客先評価中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
次世代 自動車	① 高熱膨張レンズ用金型 (TR合金) ラインナップ化	①新材料開発中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
	② 放電加工対応超硬合金 (VG51)	②販売中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
	③アモルファス合金 に適した超硬合金	③新材料開発中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
省資源	① 省タングステン・ コバルト合金	①ラインナップ化 客先評価中 (特許取得済)	点線矢印	実線矢印	二重線矢印
	② 超硬合金の新製造 プロセスの検討	②開発中	点線矢印	実線矢印	二重線矢印

点線矢印 : 開発中
 実線矢印 : 客先評価中
 二重線矢印 : 販売中

粉末冶金技術

高度な粉末冶金技術
による新材料開発

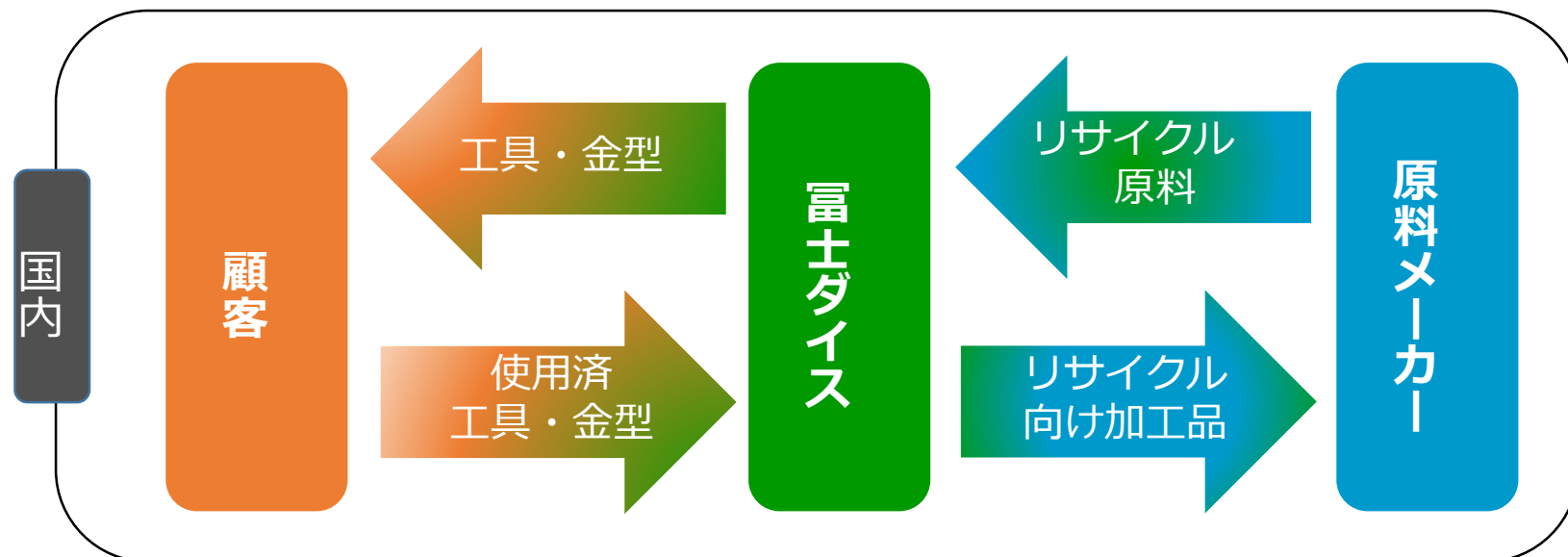


超精密加工技術

様々なニーズに応える
加工技術の探求

超硬耐摩耗工具・金型のリサイクル

- スクラップ回収に必要な各種申請手続きを完了、モデル地域を定め、10月より試験的な回収を開始
ビジネスモデルを構築後、対象地域を拡大予定
- 顧客網を活用し、超硬耐摩耗工具・金型の国内循環型リサイクルの実現を目指す
- 限りあるレアメタルを有効活用し、原料調達リスクを低減



取り組み

- 新規事業の早期実現に向けたM & A、業務提携の実施を検討中

04

海外事業の飛躍に向けての取り組み

海外事業の飛躍

各エリアでの進捗と第3四半期以降の取り組み

中国

富士模具：販売拠点

進捗

ローカル企業向けに光学機器関連の販売を拡大、売り上げに貢献
半導体関連の素材販売が好調

取り組み

深圳での展示会出展などにより、さらなる知名度向上でNEV関連メーカーへの拡販を強化

アセアン

FUJILLOY THAILAND：生産/販売拠点

FUJILLOY INDONESIA：生産/販売拠点

FUJILLOY MALAYSIA
：販売拠点

進捗

タイ・インドネシアは、メインの輸送機器が芳しくない中で、輸送機器以外の製品群の拡販を強化
マレーシアは、半導体関連が低調

取り組み

他業種・日系企業以外への拡販を推進
タイ 11月に展示会出展
インドネシア 12月展示会に出展予定

北米

進捗

売上拡大を目指し、新規マーケットの獲得のため、市場調査を継続

取り組み

自前主義を脱却し、新しいビジネスモデルを検討中

インド

進捗

事業再開プロジェクトを発足
市場調査と現地拡販活動を強化

取り組み

2026年1月に展示会出展予定
2026年中の事業再開を目指す

2027年3月期目標

海外売上比率：25%以上

2026年3月期第2Q

海外売上比率：21.7%

(2025年3月期：19.5%より2.2ポイントUP)

アセアンの知名度向上・新規顧客の獲得と販売拡大

現地子会社 があるタイ・インドネシア
事業再開を目指すインドでの
知名度向上と新規顧客開拓を目指し、展示会に出展

FUJILLOY THAILAND

- 11月19日～22日にバンコクで開催された「METALEX 2025」に出展



【「METALEX 2025」弊社ブース】



FUJILLOY INDONESIA

- 7月16日～19日にスラバヤで開催された「Manufacturing Surabaya 2025」に出展
- 12月3日～6日にジャカルタで開催される「Manufacturing Indonesia 2025」に出展予定

インド

- 2026年1月21日～25日にベンガルールで開催される「IMTEX FORMING 2026 – International Forming Technology Exhibition -」に出展予定

FUJILLOY

中国での知名度向上・新規顧客の獲得と販売拡大

現地子会社「富士模具貿易（上海）有限公司」の拠点 上海・東莞での知名度向上と新規顧客開拓を目指し、展示会に出展

- 6月4日～7日に上海市で開催された「第24回中国国際金型技術と設備展示会」に出展
- 9月10日～9月12日に営業拠点がある東莞市に隣接する深圳市で開催された「第26回中国国際オプトエレクトロニクス博覧会（CIOE 2025）」に出展、ガラス成形用金型などを展示



【「第26回中国国際オプトエレクトロニクス博覧会（CIOE 2025）」弊社ブース】

- 11月5日～8日に深圳市で開催された「第26回DMP国際金型及び金属加工博覧会」に出展



中期経営計画2026 連結数値目標

【2027年3月期における連結数値目標】

連結売上高
200億円

営業利益
20億円

経常利益率
10.5%
(経常利益 21億円)

ROE
7.0%

	2025年3月期 実績	2026年3月期 業績予想	2027年3月期 目標
売上高	165億円	176億円	200億円
営業利益	4.8億円	6.0億円	20.0億円
経常利益	6.0億円	7.0億円	21.0億円
経常利益率	3.6%	3.9%	10.5%
当期純利益	4.2億円	4.6億円	15.0億円
ROE	2.1%	2.2%	7.0%

(2027年3月期の目標値は、米国関税政策による影響などが不透明なため変更なし)

05

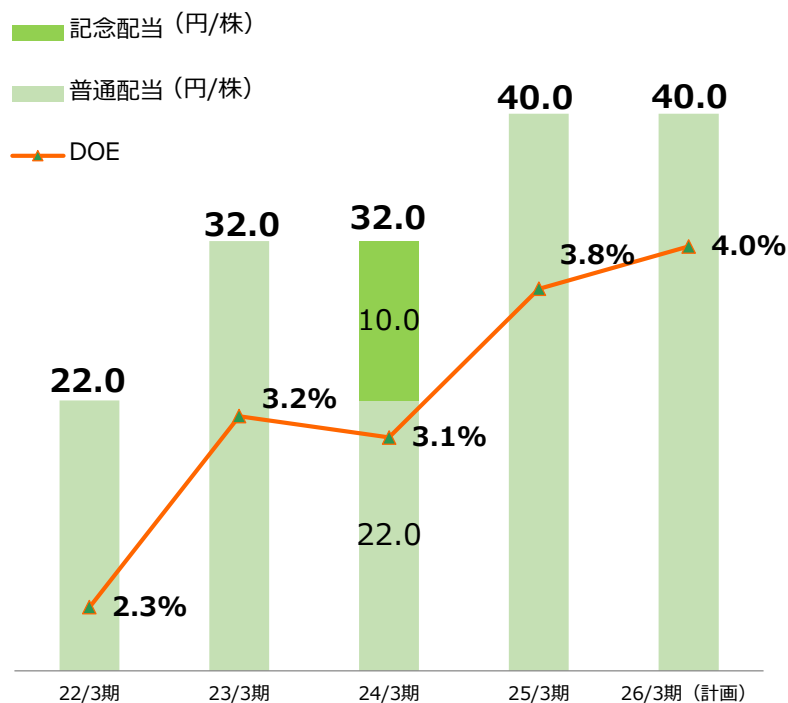
資本コストや株価を意識した経営の実現

2026年3月期 株主還元・配当

2026年3月期は1株当たり40円を計画

年間配当金
40円

- 2027年3月期までの中期経営計画期間中は、配当の基準を従来の配当性向から株主資本配当率（DOE）に変更するとともにDOEの目標値を4%目途に変更
- 2026年3月期の配当は前期の配当と同額の一株当たり40円を計画



株価の動き

【2025年3月31日時点】

株価	754円
配当利回り	5.31%
時価総額	150億円
PBR	約0.72倍



2025年8月12日に自己株式の取得を公表

【2025年11月26日時点】

株価	868円
配当利回り	4.61%
時価総額	173億円
PBR	約0.85倍※

株価
15%
アップ

※2026年3月期第2四半期の純資産額で計算

2026年3月期 株主還元・配当

自己株式の取得を2025年8月12日に公表

資本効率の向上と株主への利益還元および将来の機動的な資本政策を可能とするため、業績・資本の状況、成長投資の機会、株価を含む市場・業界環境の変化を考慮しながら機動的に実施。

自己株式取得の内容

(1) 取得する株式の種類	当社普通株式
(2) 取得する株式の総数	40万株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合2.0%）
(3) 株式の取得価額の総額	3億円（上限）
(4) 取得期間	2025年8月18日から2025年12月23日まで
(5) 取得方法	東京証券取引所における市場買付

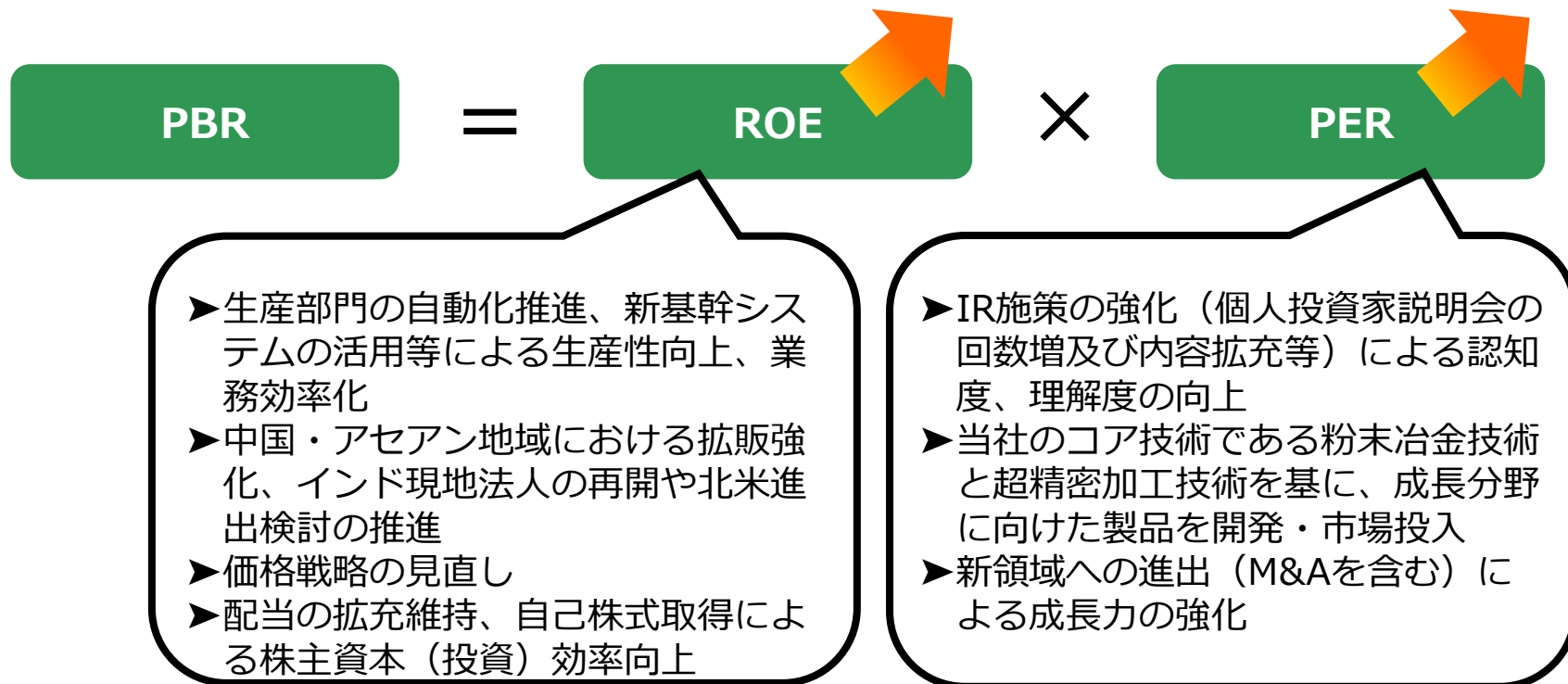
自己株式取得の状況 2025年10月31日現在（約定ベース）

・ 取得した株式の総数	244,500株
・ 株式の取得価額の総額	208,955,500円

今後の対策について

今後の取組みの方針

- ▶「中期経営計画2026」に沿って「変化に対応できる企業体質への転換」を果たし、収益性や成長力を向上させる。



06

APPENDIX

会社概要（2025年11月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 春田 善和
創業	1949年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6167 [業種：機械]） 2015年6月東証二部に上場、2017年4月東証一部に市場変更
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,090名（2025年3月期末時点、連結）



当社の特長

超硬耐摩耗工具市場で**トップシェア**

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア
30%以上

長期的成長を担う高い**素材開発力×加工技術力**

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発力
新鋭設備研究と加工方法の最適化による匠の技と最新テクノロジーの融合

コア技術
・粉末冶金技術
・超精密加工技術

開発力-技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数
約3,000社
(グループ連結)

財務基盤：黒字経営を継続し、高い**自己資本比率**を維持

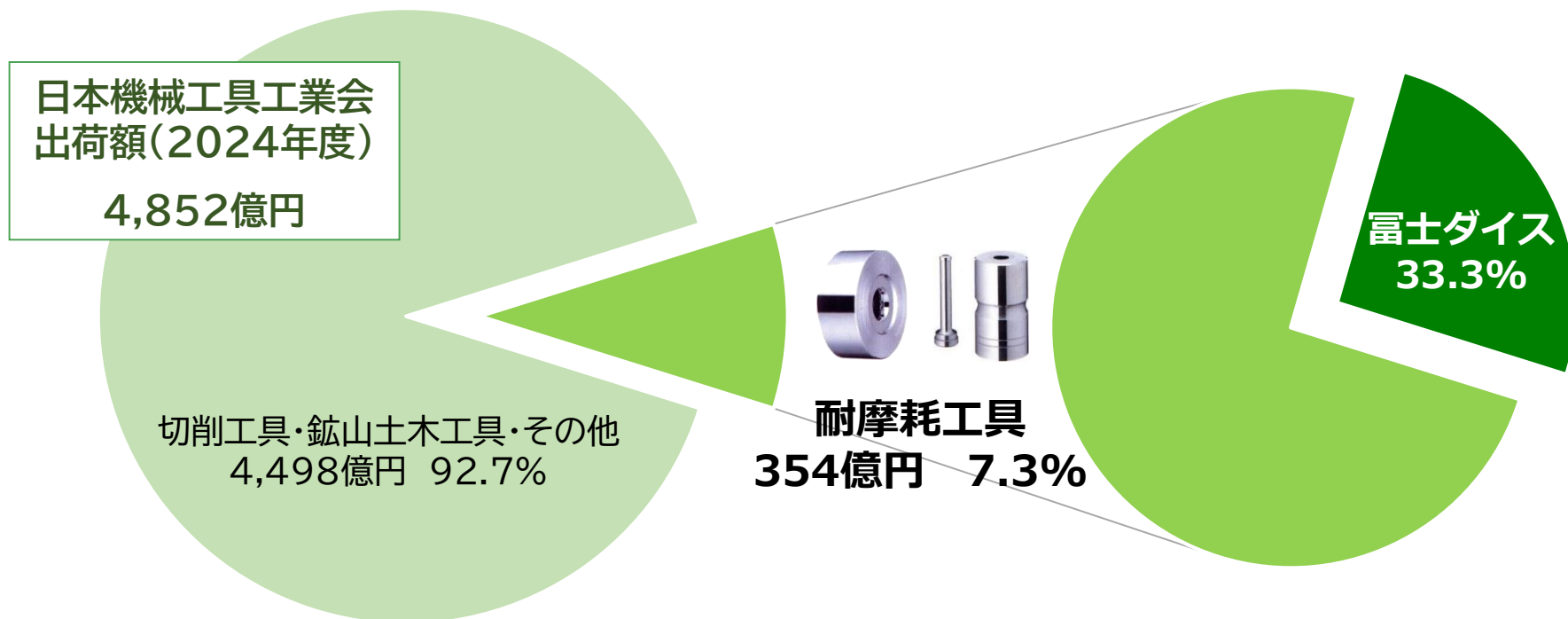
ネットキャッシュ 7,089百万円

フリーキャッシュフロー 668百万円

(2025年9月末・百万円未満 切り捨て)

自己資本比率
79.6%
(2025年9月末時点)

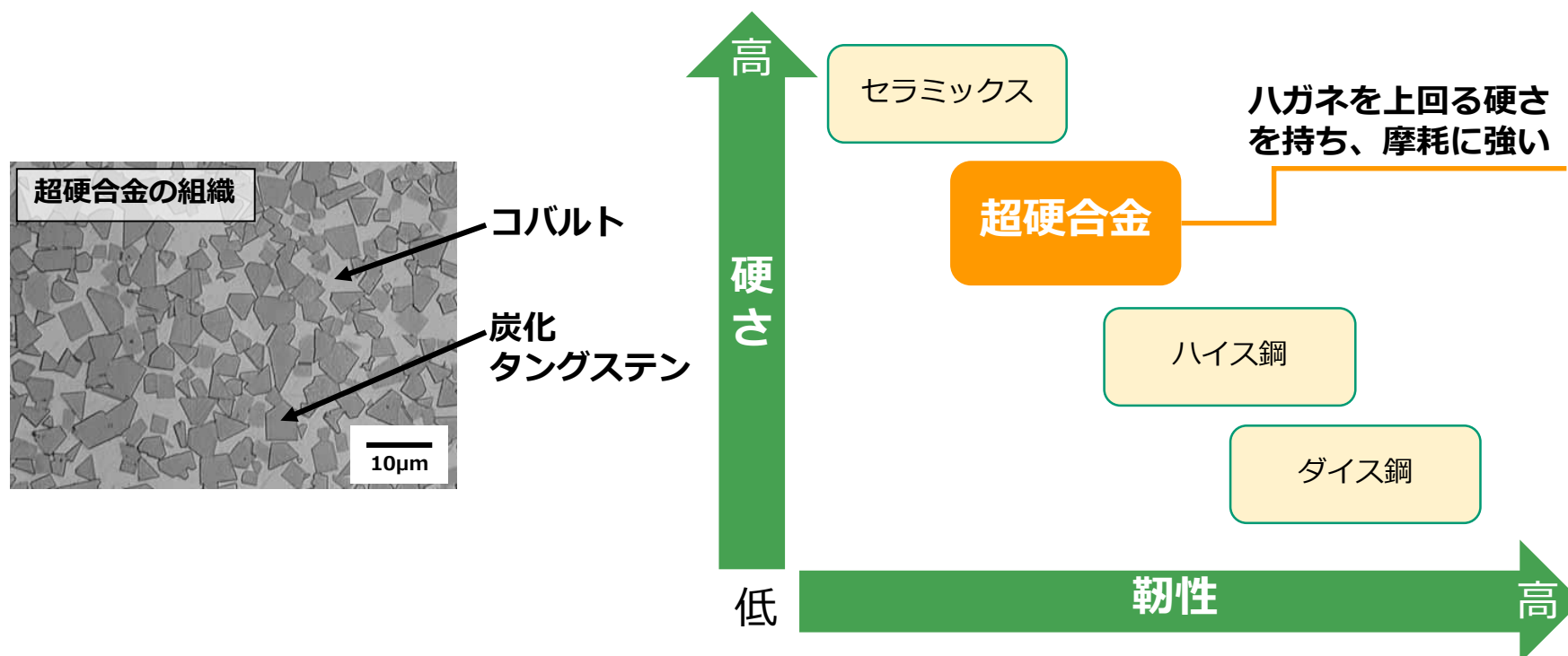
超硬工具の国内市場規模（日本機械工具工業会調べ）



耐摩耗工具において、長年に亘ってトップシェアを堅持
当社の超硬工具の売上 117億円（119億円/2023年度）

超硬合金とは

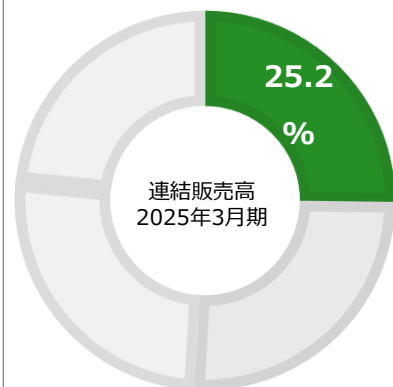
- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める「**粉末冶金法**」で製造される



事業内容 製品区分

■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化

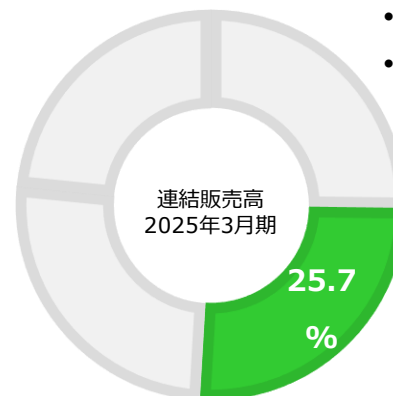
超硬製工具類



- ・ ダイス、プラグ
- ・ 溝付きプラグ
- ・ 熱間圧延ロール
- ・ 超高压発生用工具 等



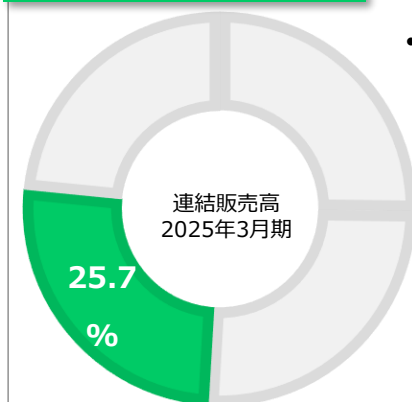
超硬製金型類



- ・ 自動車部品製造用
- ・ 製缶用
- ・ 電池関連用 等



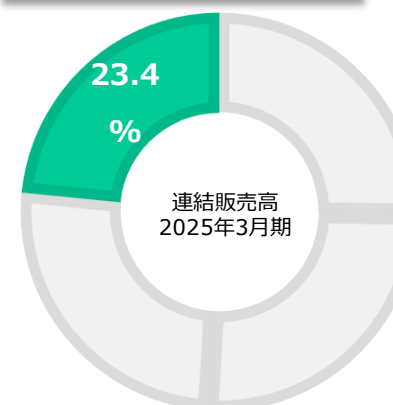
その他の超硬製品



- ・ 超硬合金素材
- ・ 半導体製造装置用部品 等



超硬以外



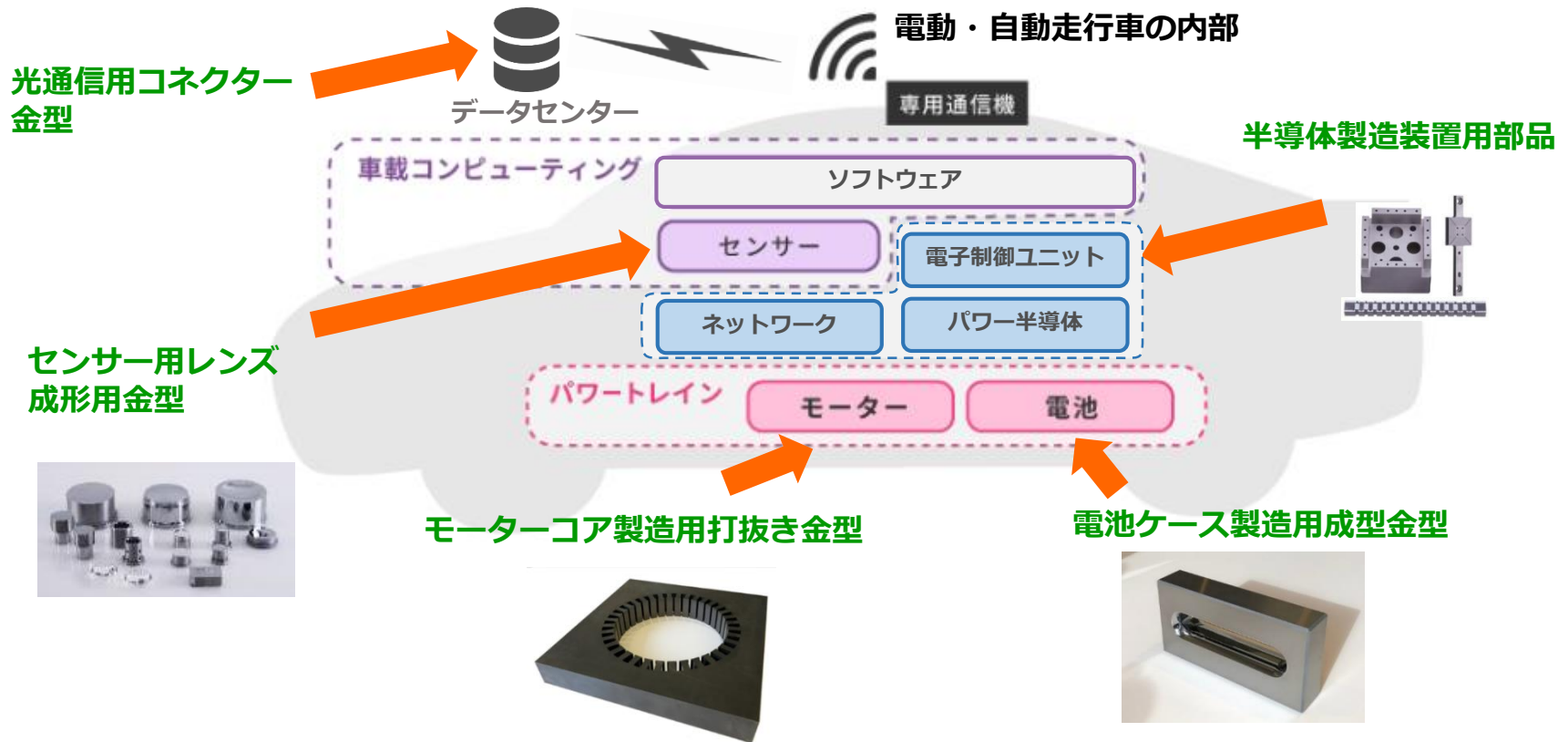
- ・ 鋼製品
- ・ KF2製品
- ・ セラミックス製品
- ・ ダイヤモンド研削砥石
- ・ FHR製品
- ・ 銅タン
- ・ NFメタル
- ・ 引抜鋼管 等



成長分野と富士ダイスの関係

次世代自動車・半導体・光通信

自動運転向けセンサー用光学部品、次世代光通信分野、半導体製造装置分野に、
当社の工具・金型・素材が貢献



電動・自動走行車の内部 図の引用元：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のホームページ

成長分野と富士ダイスの関係～次世代光通信～

光通信用向け高精度コネクタ金型・ガラス成型用金型

「ファイバーアレイ」「マイクロレンズアレイ」などの超精密コネクタ金型や、フォトリソ用ガラス成型用金型を開発

市場投入フェーズ

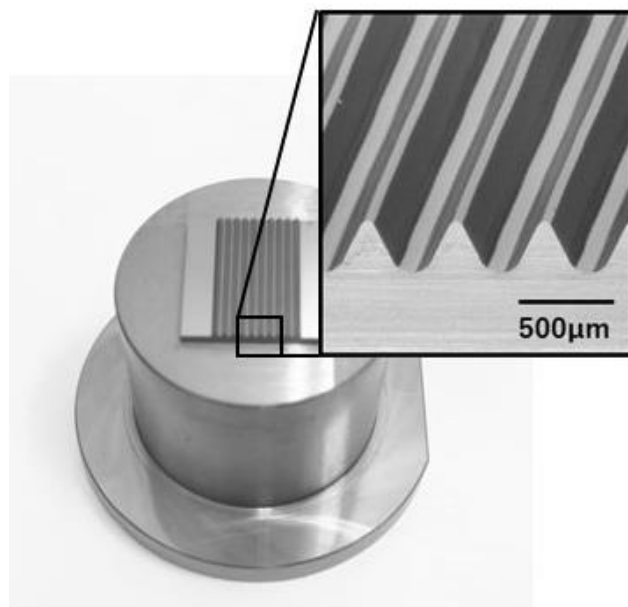
開発開始

客先評価中

- 最先端の超精密加工技術により寸法精度 $0.1\mu\text{m}$ 以下※¹の「ファイバーアレイ」「マイクロレンズアレイ」などの金型製作が可能
- 高精度測定機により超精密・微細加工後の品質保証が可能

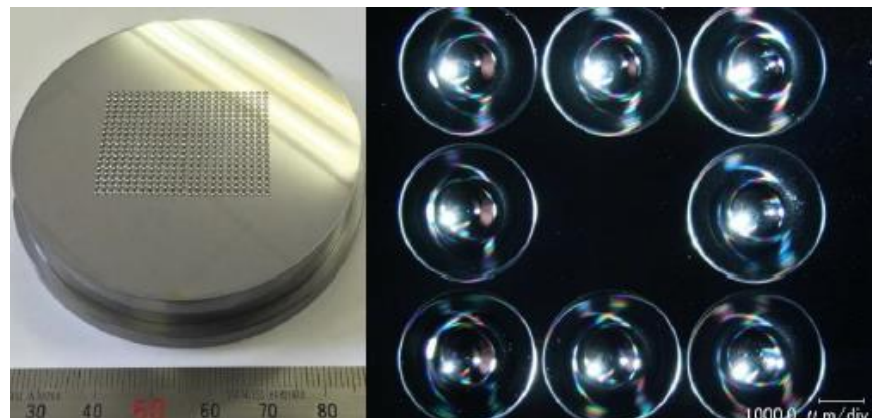
※¹ 寸法精度 $0.1\mu\text{m}$ とは？

髪の毛の1000分の1のズレも許されないレベルの加工精度



ファイバーアレイ※²

※² 光ファイバーと光学部品を接続するコネクタ



マイクロレンズアレイ
ガラス成型用の金型

成長分野と富士ダイスの関係～次世代エネルギー～

水素発生用触媒・電極(PME)

需要の拡大が予想されるグリーン水素製造装置向けニッケル製電極(PME※)を開発

※Powder Metallurgy Electrode (触媒を含有した電極)

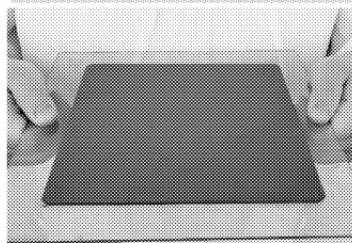
市場投入フェーズ

開発開始

客先評価中

- 水の電気分解による水素製造の際、必要な消費電力を従来比20%削減。
- 触媒はカルシウム、銅及び鉄の酸化物（貴金属フリー）。

富士ダイスがニッケル電極



富士ダイスが開発したグリーン水素向け電極

装置向け27年商品化

富士ダイスは、水素を製造する際に電圧を従来比20%削減するニッケル製の電極を開発した。電力の低減を抑えられ、また貴金属を使用しないために環境負荷が低いという。主力事業の超硬合金製造の粉末冶金技術などを応用した、再生可能エネルギー電力を使った水の電気分解によるグリーン水素の製造装置向けに、2027年までの商品化を目指す。

国内外でカーボンニュートラル(CN)、温室効果ガス(GHG)排出量を削減(削減)に向けた投資が加速している。化石燃料から脱炭素のエネルギーへの転換が見られる中、グリーン水素はCNの有力技術になると目されている。

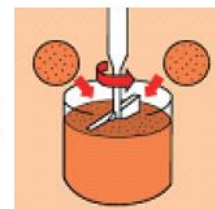
国内で東京レックイットで開演する工作機械の展示会「日本国際工作機械見本市(JIMTOF2024)」で披露する。

【2024年11月5日付「日刊工業新聞」】

グリーン水素 電力抑え製造



超高压合成技術
(触媒開発)

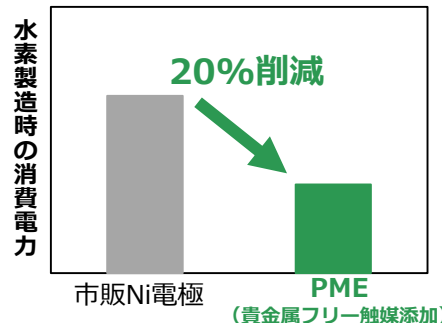


粉末冶金技術
(電極化)



高性能電極
(PME)

PMEの使用で、水素製造に必要な消費電力を削減



高い評価を受ける素材開発力・加工技術力

2023年 第66回十大新製品賞 において 「モノづくり賞」を受賞

- 「高熱膨張ガラス成形用新硬質材料【フジロTR05】」が、日刊工業新聞社主催の「2023年 第66回十大新製品賞」において「モノづくり賞」を受賞。
- 日本機械工具工業会主催の「2023年度日本機械工具工業賞」における「技術功績大賞」に続く受賞となった。



「2024年度 (第8回) 精密工学会 ものづくり賞」において 「最優秀賞」を受賞

- 【フジロイ TR05/TR30】の開発および超精密加工技術の確立が評価され公益社団法人精密工学会主催の「2024年度 (第8回) 精密工学会ものづくり賞」において「最優秀賞」を受賞。
- 「2023年度日本機械工具工業会賞」における「技術功績大賞」、「2023年 第66回十大新製品賞」における「モノづくり賞」に続き、**3度目の受賞**となった。



ものづくりを支える富士ダイスの製品



上記以外にも、富士ダイスの製品は、鉄道架線・電線などのインフラ設備、人工ダイヤモンドの製造や新素材の開発など、様々なシーンでもものづくりを支えている

代表的な製品例

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

当社製品



ダイス・プラグ



ロール

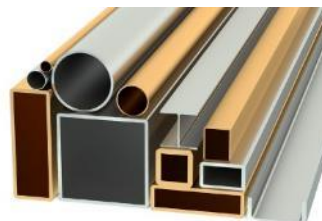
成形部材



パイプ



線材



異形管

最終製品例



エアコンなどの家電



飛行機などの輸送機器



鉄道架線・電線など
インフラ設備

代表的な製品例

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラ・自動運転用カメラセンサーのレンズを生産する金型

当社製品



製缶工具

最終製品例



飲料缶・一般食缶

当社製品



ガラスレンズ成形用金型

最終製品例



監視カメラ



カメラレンズ



自動運転用カメラセンサー

代表的な製品例

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

高圧工具

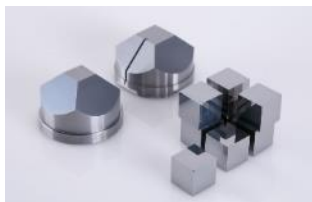
人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

当社製品



鍛造金型

当社製品



高圧工具

最終製品例



自動車・各種機械用部品

最終製品例



人工ダイヤモンド・
新素材開発

地球物理学研究

一貫生産体制により様々なオーダーに対応

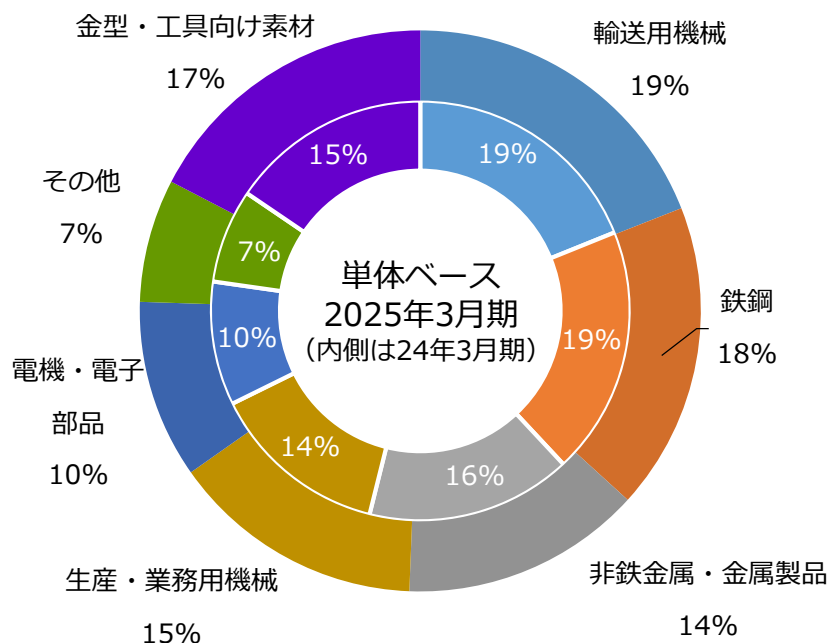
- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 2つのコア技術、高度な粉末冶金技術と超精密加工技術により様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）



受注生産・直販体制、取引先は約3千社に上る

少量多品種の顧客毎の**カスタムメイド**の受注生産・直接販売を行う
顧客との強固なネットワークにより、取引社数は**約3千社**、業種も幅広い
特定の**業界動向**に影響されない**安定性**が強み

【顧客産業分類区分売上構成(%)】



【営業・生産拠点（2025年3月末時点）】

【国内】

●生産・営業拠点	5ヶ所
●生産拠点	2ヶ所
●営業拠点	5ヶ所

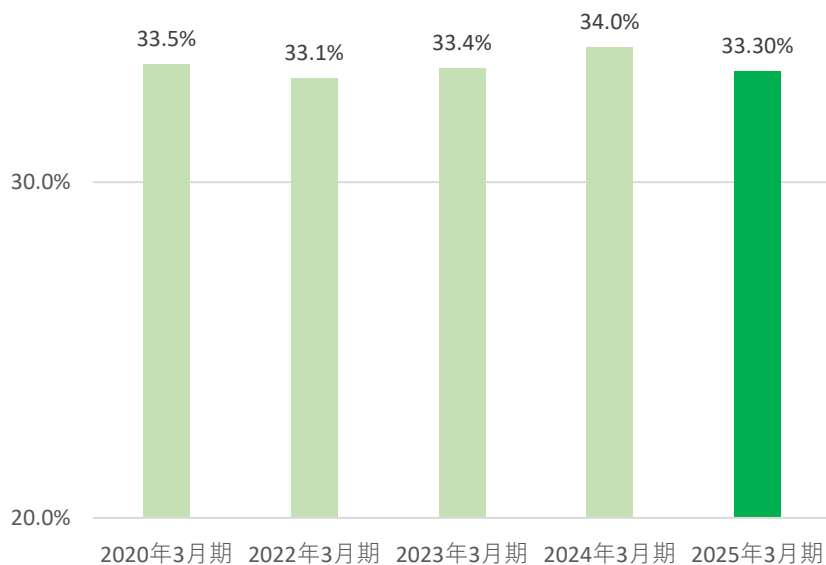
【海外】

●生産・営業拠点	2ヶ国
タイ・インドネシア	
●営業拠点	3ヶ国
中国・マレーシア・インド（休眠中）	

耐摩耗工具専門国内トップメーカー

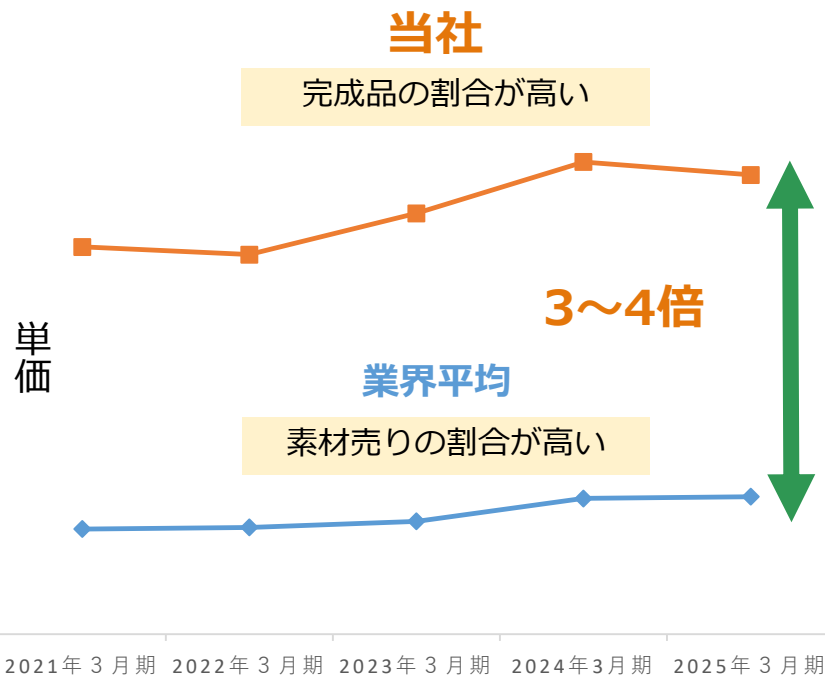
国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り**、**トップシェア（30%超）**を堅持
少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定して推移**

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



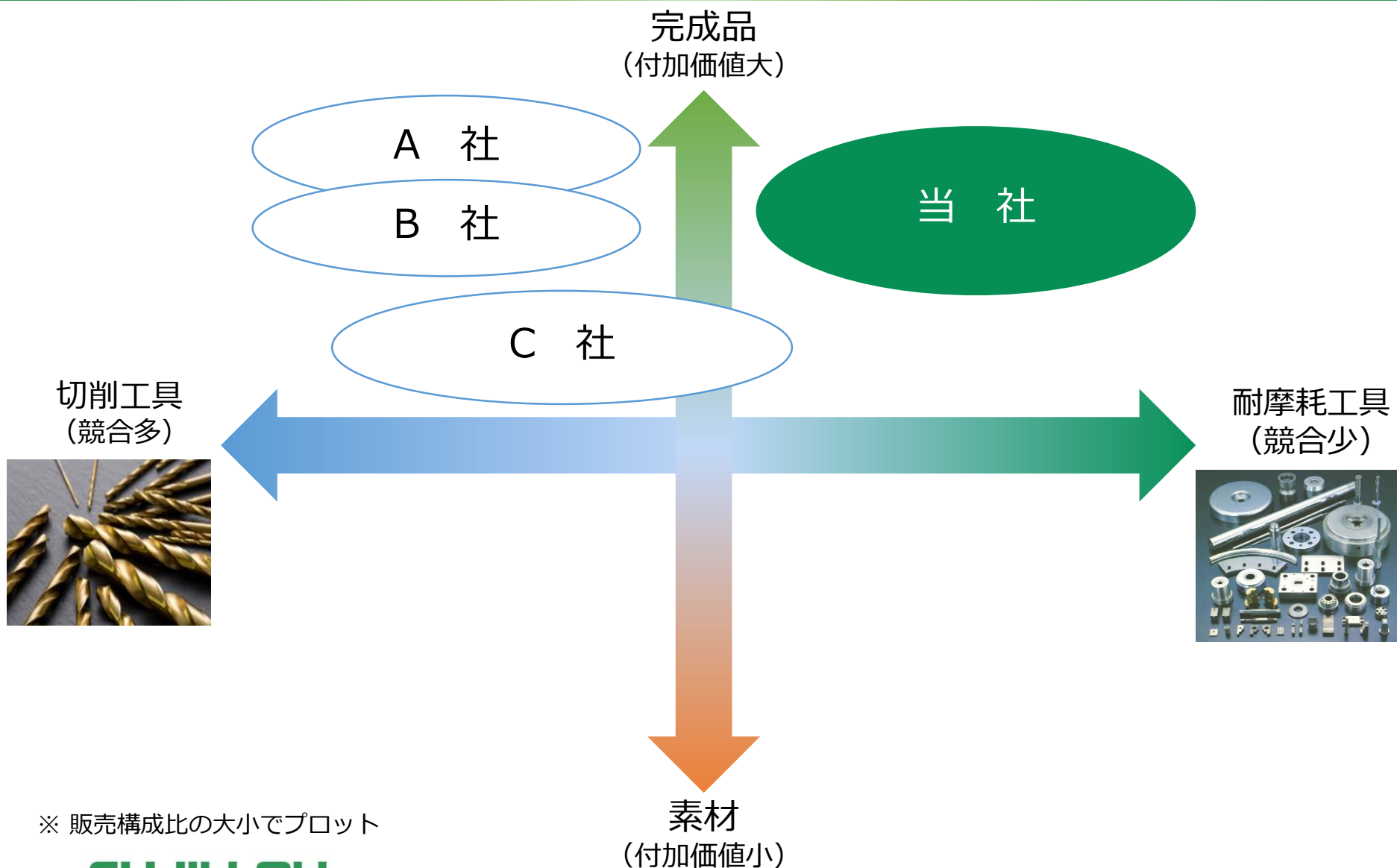
※2021年3月期は新型コロナウイルスの影響が大きいため除外

製品の平均単価の推移



出所：日本機械工具工業会

工具業界 ポジショニングマップ（上場企業）



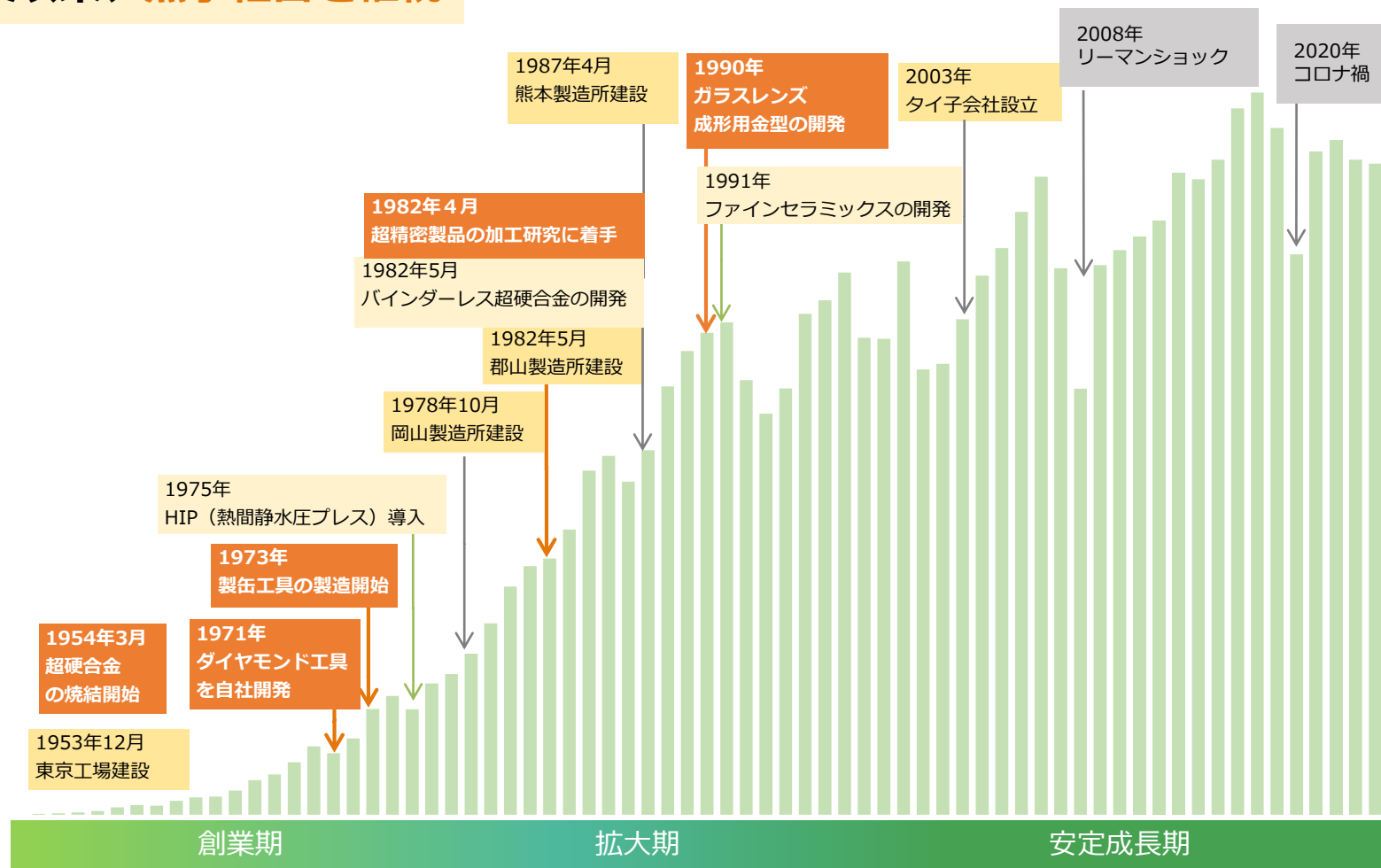
※ 販売構成比の大小でプロット

FUJILLOY

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

主な沿革と売上高推移

創業以来、黒字経営を継続

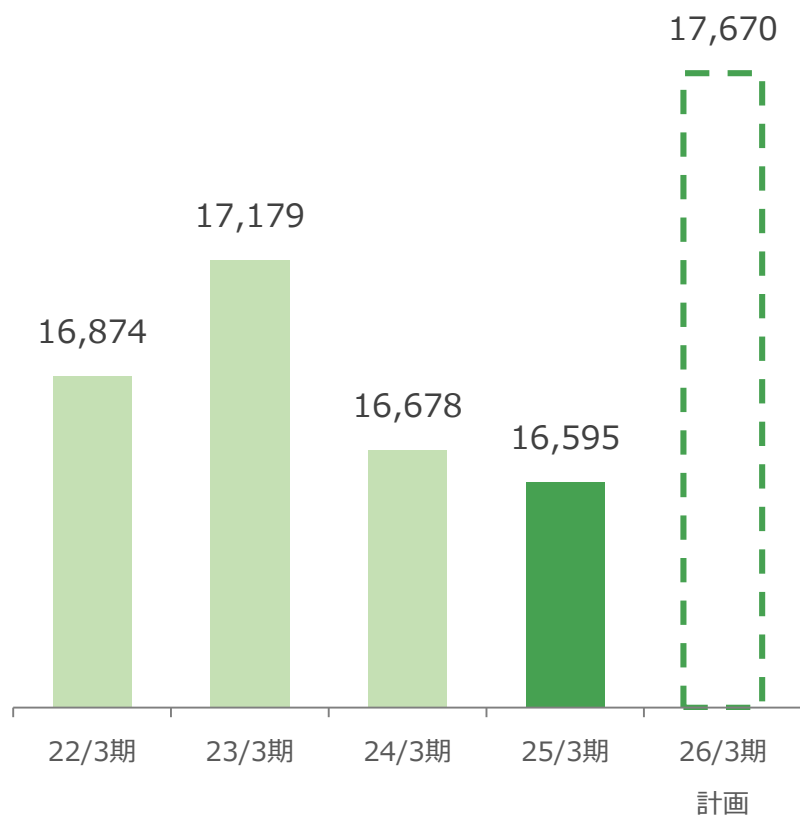


(注) 2012年度以降は連結売上高

業績の推移 1/3

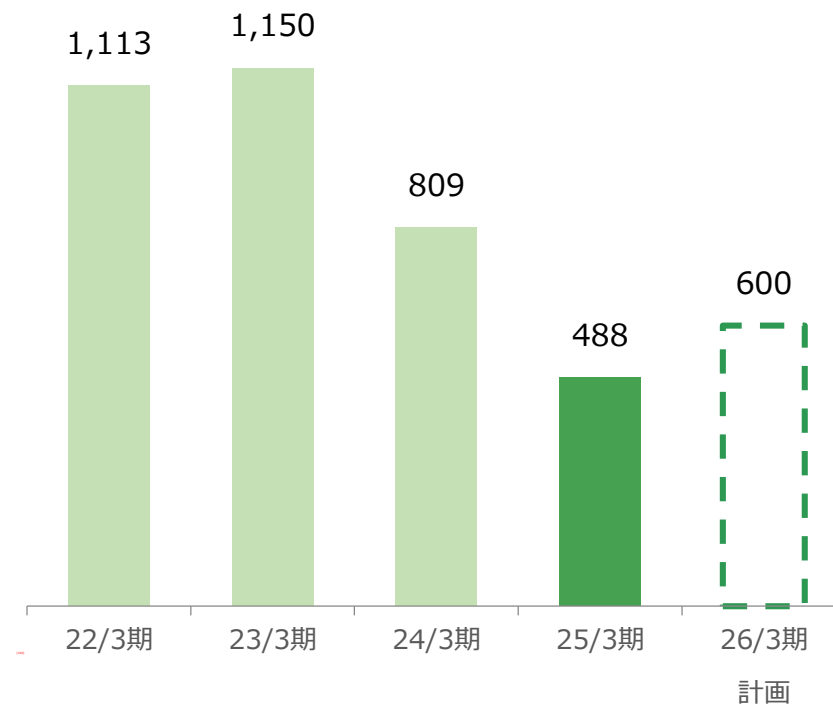
売上高

(百万円)



営業利益

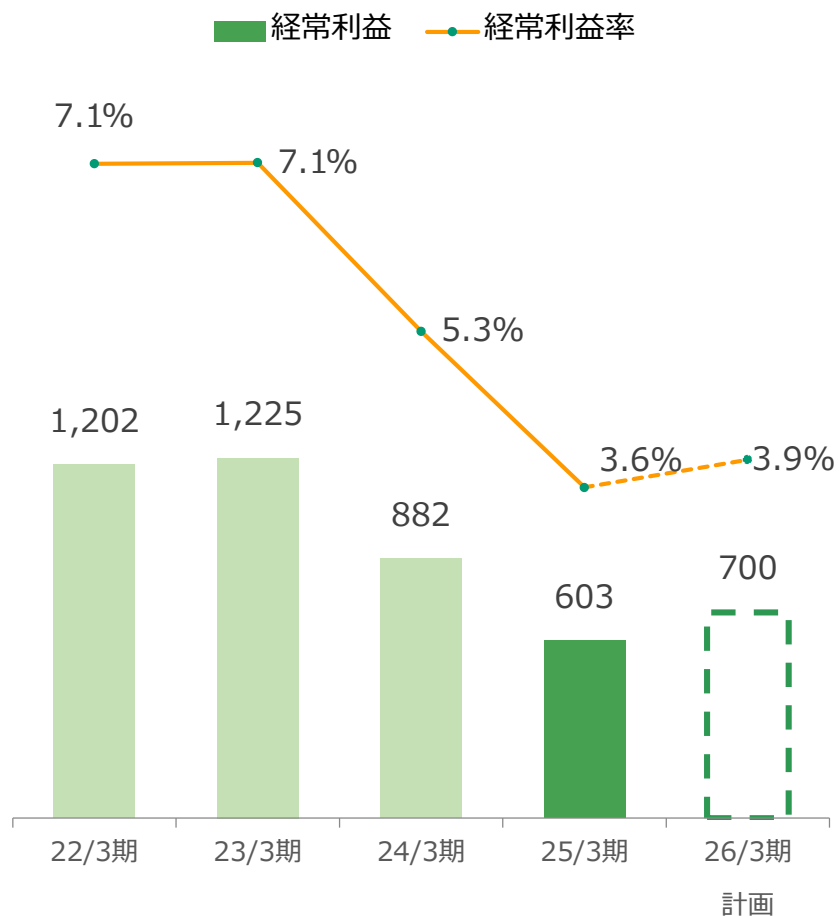
(百万円)



業績の推移 2/3

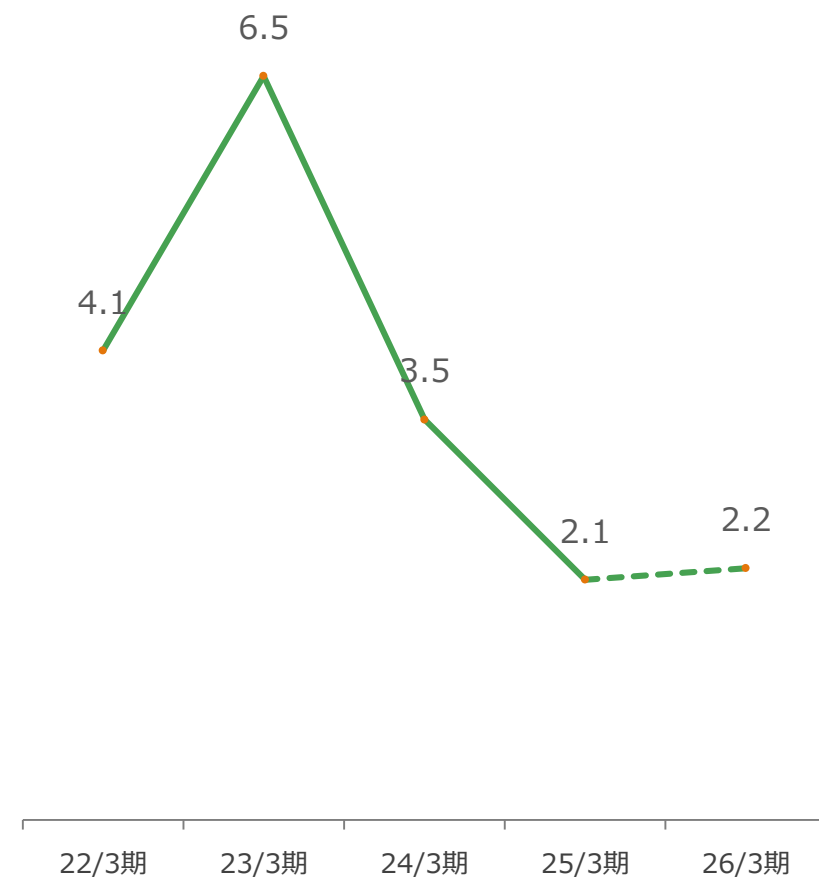
経常利益

(百万円)



ROE

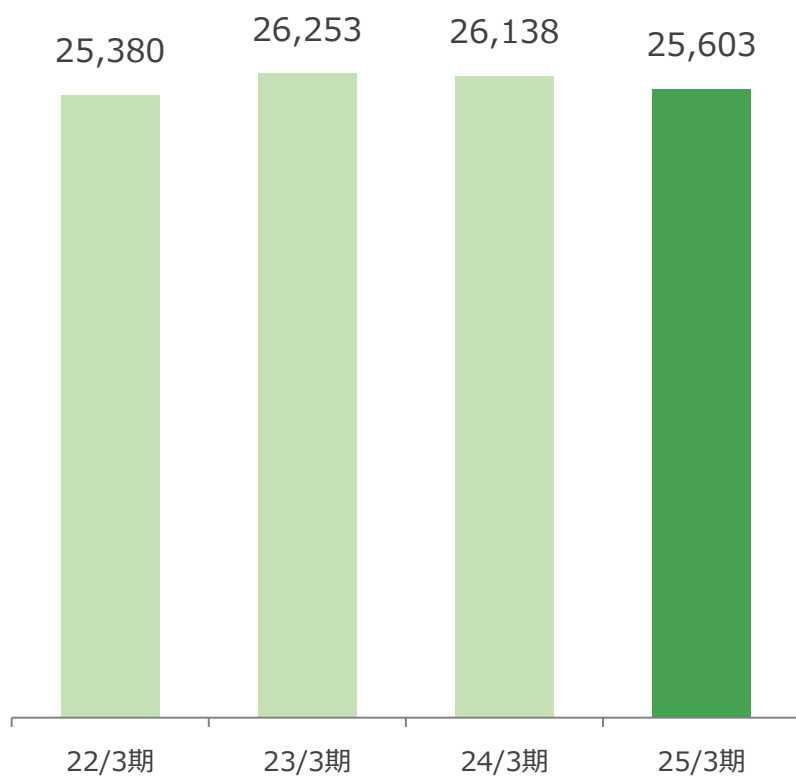
(%)



業績の推移 3/3

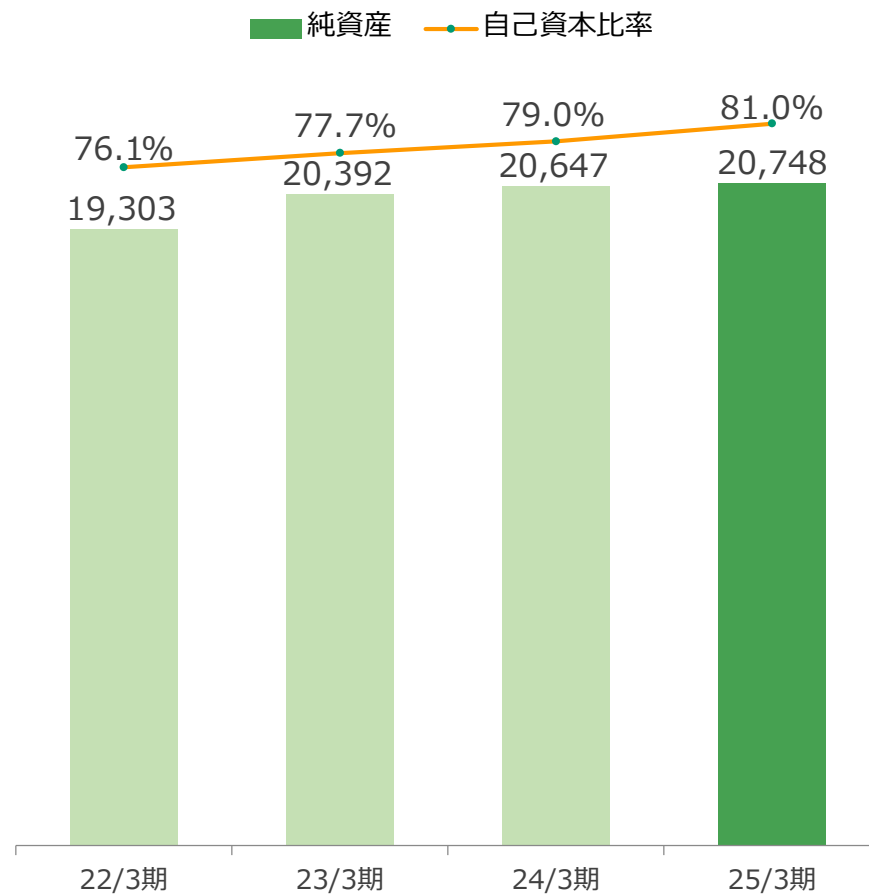
総資産

(百万円)



純資産

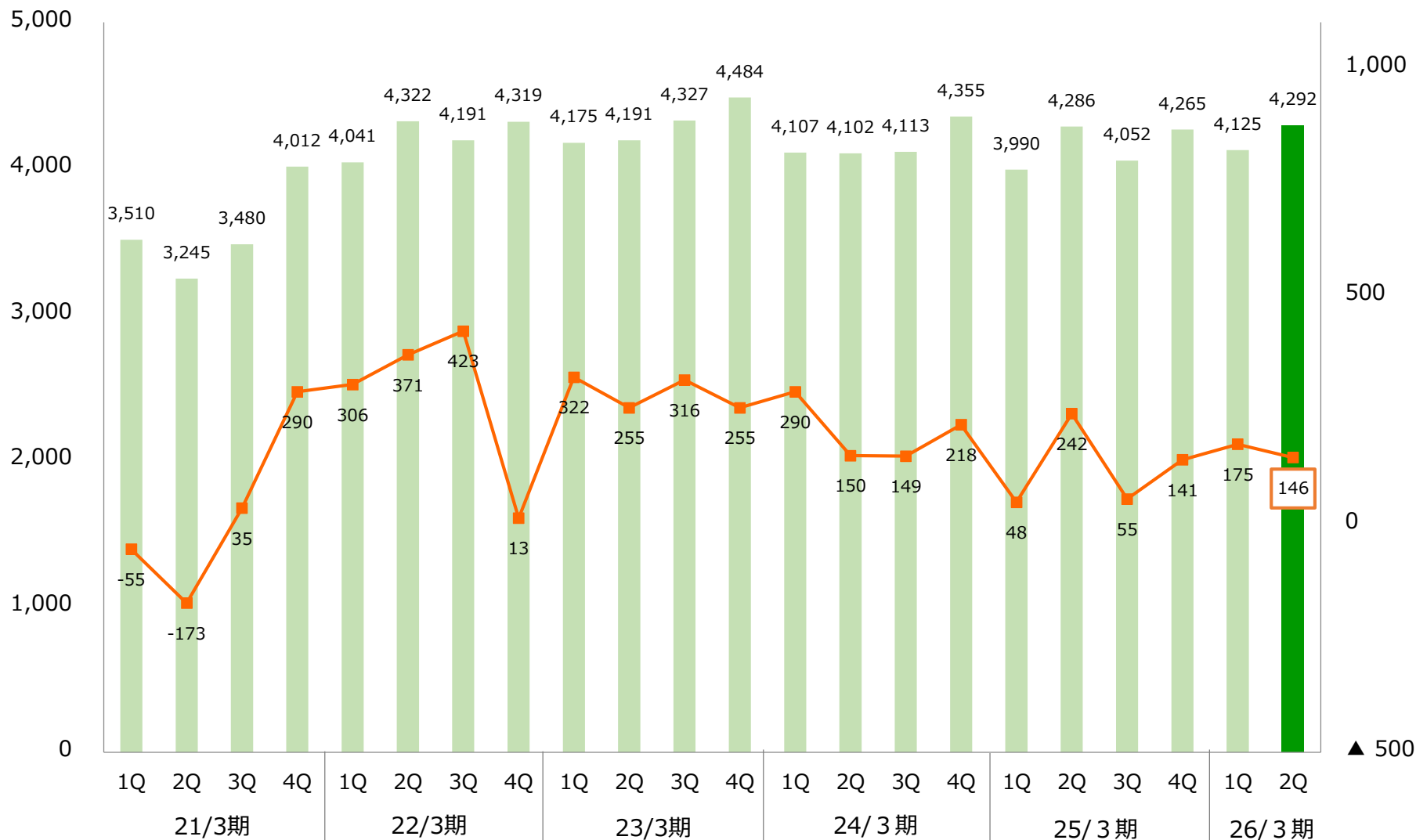
(百万円)



連結四半期業績推移

売上高 営業利益

(単位：百万円)



免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。